

陸上運動部部便り

京大戦, 日本選手権

2000年10月24日

目次

1	京大戦	1
1.1	監督の言葉	1
1.2	副将の言葉	1
1.3	試合経過	1
1.4	試合結果	4
2	日本選手権	6
2.1	監督の言葉	6
2.2	選手の言葉	6
2.3	試合結果	6
3	箱根駅伝予選会	6
3.1	監督の言葉	6
3.2	主将の言葉	7
3.3	長距離チーフの言葉	7
3.4	選手の言葉	7
3.5	試合結果	8
4	新主将、新主務の言葉	8
4.1	新主将の言葉	8
4.2	新主務の言葉	9
5	2000年度部内5傑	9
6	住所変更・訂正	10
6.1	OB住所変更国内	10
6.2	OB住所変更海外	10
6.3	訂正・更新状況	10

点負け。そのまま流れに乗れず、競り合いは大抵ものにできない、という大敗パターンにずるずると入ってしまいました。投擲を除くと、各種目に層の薄さがはっきりでした。また七大戦以降夏休みの取り組み方もよくなかったと思います。それが一橋戦の気の抜けた戦い方になってしまいました。夏を経て秋に記録を大きく伸ばした部員が長距離以外はあまりいない、ということにも現れています。一橋戦でだめな年はこの試合でもだめという前例が今年も当てはまってしまうました。卒業する主力選手も多く、さらに来年は大変だという気持ちを部員全員が持って、どれだけ建て直していけるのか、大変厳しい気持ちです。

1.2 副将の言葉

副将 青木 孝

この度の京大戦は、去年の雪辱を晴らすべく、今年こそは勝つという意気込みで臨みましたが、結果は完敗に終わりました。やむなく欠場した新妻の分までがんばろうと、気持ちの面では4年生を中心として一丸となっていました。その成果も実らず、今はただふがない気持ちでいっぱいです。しかし、私達4年のこの悔しさを、かならずや近い未来に下級生が晴らしてくれるものと信じています。OB、OGの皆様にはこれからも温かく部員を見守ってくださるようお願い致します。京都まで応援に来てくださった皆様、ありがとうございました。

1.3 試合経過

トラック

10:30 100m

2レーンに関水(3年)、4レーンに長田(4年)、6レーンに青木(3年)が出場。新しいスタートを試みた関水は、中盤まで京大2人と競り合う。後半も粘ったがやや離され11"16の自己ベストで3位。長田はスタートからリードを奪われ、後半追い上げるも11"42の5位。

1 京大戦

1.1 監督の言葉

厳しい結果 監督 八田秀雄

京大戦は10月7日、太陽が丘競技場で行われました。接戦に持ち込みたいと思っていたところが、非常に厳しい結果に終わりました。最初の100m、1500m、走り高、ハンマーが終わった時点で同点から数点負けくらいにとどめないと勝ちはないと思っていたのが、16

青木は中盤まで最下位であったが、後半一気に追い上げ、上位には届かなかったものの11"28の4位であった。

10:40 1500m

桑田(4年)、笹原(1年)、高橋(1年)の出場。1周目は様子見といった感じで65~66秒で入る。体感的に「ゆったりとした」ペースで展開し、長身の京大選手2人にレースを作ってもらおうという印象。特に動きのないまま1000mを2'44~45"で通過し、選手はラストスパートに備えて前に出始めるが、ここで桑田が遅れる。京大がラスト1周でスパートし、笹原・高橋は果敢に追う。笹原は必死にくらいつき激しい3位争いを演じるが、惜しくも及ばず数cm差で4位。高橋は1500mの勝負勘の鈍りからか、持ち前のスピードを発揮できなかった。桑田は離れてからは苦しいレースを見せ、最後の試合にピークを合わせるができなかったようだ。

11:50 400m

2レーンに普光(4年)、4レーンに堀内(2年)、6レーンに稲澤(4年)が出場。堀内は、前半から積極的に飛ばし、果敢な走りで300m地点をトップで通過すると、得意の後半で他の選手と大きく差を広げ、48"71の自己ベストで1位。稲澤は前半快調に走り、250m付近から徐々にスピードが落ちるものの、ラストの直線では踏ん張り50"57で3位。普光は前半を抑え気味に走り、ラストに懸命の追走をするも届かず、52"42で6位だった。

12:30 110mH

3レーンに渡辺(2年)、5レーンに関水(3年)、7レーンに八木澤(4年)が出場。前半関水は無難なスタートを切り2番手争いに加わるが、6、7台目で調子を崩し、結局16"42の5位。八木澤は前半、他の選手に遅れを取ってしまい、後半追い上げるが15"96で4位。渡辺は前半から精細を欠き、5台目のハードルに足を引っかけて完全にリズムを崩し、18"09で6位であった。

13:00 4×100mR

5レーンに関水(3年)-稲澤(4年)-長田(4年)-青木(3年)のオーダーで出場。関水は徐々に外側の京大との差を詰め2走稲澤へ。稲澤はリードを保ったまま着実なバトンで3走長田へ。長田は京大に逆転を許してしまうが、その後は食らいつき4走青木へ。青木はラスト

30mで京大との差を一気に詰め、七大戰の借りを返したかと思われたが、またもわずかな差で敗れた。タイムは42"22であった。

13:15 800m

西村(4年)、八木(4年)、池田紘士(3年)の出場。関カレ以来の自己記録の更新を狙って、八木が序盤からレースを引っ張る。西村と池田も3、4番手でそれに続く。八木は一周目を55"6で通過すると、その後も一度も先頭を譲ることなく1着1'54"31でフィニッシュ。自己記録の更新こそならなかったが、賞祿のレース運びであった。西村は1周目を通過して2番手に上がり一時は八木に迫る勢いでとばすも、ラストでやや疲れ一人にかわされ1'56"70の3着。池田もバックストレートで切り替えて上位に食らいつくが、直前の練習不足がたたってラストの直線で失速。6着2'00"96に終わった。この結果、東大は11点を獲得し、京大戦の800mで久々の勝ち越しを決めた。

13:35 200m

2レーンに長田(4年)、4レーンに青木(3年)、6レーンに稲澤(4年)が出場。3人とも素晴らしいスタート見せる。稲澤はインから猛烈に追い込まれるが何とか押さえ、後半はその着順を維持し、4位22"69。青木は前半アウトに離されるも粘りの走りを見せ、後半もスピードに乗ったまま22"56の3位でゴール。長田は最初から遅れ、後半追い上げることもできず23"02の6位に終わった。

14:15 400mH

3レーンに羽場(4年)、5レーンに加藤(2年)、7レーンに河内(3年)が出場。羽場は怪我のため練習が思うようにできなかったためか1台目のハードルに足が合わず体勢を崩してしまう。その後も持ち直そうとするが、200m過ぎからは足を引きずるようになってしまい、何とか完走を果たした。加藤は前半は快調に走り、150m付近では遅れたが、4コーナー辺りから再びスピードを上げる。しかし、最後は伸びることはできずに5位。河内は3台目までは何とか京大に食らいついていたが、そこからインターバルの走りがきつくなり遅れていく。必死に前の選手を追っていくが、結局60"67で4位であった。

15:15 5000m

4年中台・3年池田哲・1年田坂の出場。日が傾き風が肌寒く感じられる中スタートした

5000 mは3年池田哲が引っ張り、1000 mを3'04、2000 mを6'09で通過。2600 mから4年中台と京大田中が飛び出し、先頭を二人で行く。1年田坂は20 mほど離れ4番手、池田哲は50 m離れ6番手に行く。ラスト2週で中台が満を持してスパートし、京大田中を引き離す。そのまま中台が優勝して1位(15'06"25)。田坂は粘って4位(15'27"80)。池田哲はラストスパートで5位を食おうとするも届かず6位(15'28"80)。

15:45 4 × 400mR

6レーン長田(4年)-稲澤(4年)-八木(4年)-堀内(2年)のオーダーで出場。長田はスタートから早いピッチで飛ばし、リードを奪って稲澤へ。稲澤は力強い走りで京大との差をさらに広げて八木へ。八木は400mの間ペースを乱すことなく走り、これまでのリードをさらに大きなものとして4走堀内へバトンを渡して中距離の力を見せつけた。堀内は400m優勝の勢いをそのままに、貫禄さえ伺える力走で京大に大差をつけてゴール。タイムは3'20"37であった。

フィールド

10:30 走高跳

青木(4年)、藤原(2年)、森下(2年)の出場。森下は故障明けということもあり、体のきれが悪かったが185 cmまでをそれぞれ2回目で跳び、5位。青木は190 cmまでを1回目、195 cmを2回目で跳ぶが200 cmを跳ぶことができず、まさかの4位。藤原は195 cmまでを1回で跳び、自己ベストである200 cmも2回目でクリアー、京大の選手と1位決定戦となるが、疲れが出たためか敗れ、2位となった。

11:00 ハンマー投げ

岡野、出口、雪本の出場岡野は第一投から無難に記録を残すと、確実にベストへ近い投擲になって行く。しかし3投目で34m35を出して4番手につけたあとは記録を伸ばせず、そのまま4位であった。

出口は「入るだけ」な感の強い第1投のあと強気な発言通りに35m台のベスト記録だったのを大きく上回る38mを出す。4投目にベストとなる39m66を記録し、逆転で1番手となるとその後も38m台の記録を残し、辛くも優勝となった。

雪本は第1投から肩に力が入り、力み返った

投擲で連続でファールする。その後もなんとか記録を残すがやっつとで、結局第3投の18m95の記録で6位に終わった。

11:30 走幅跳

4年八木澤、大堀、2年橋本の出場。昨年同メンバーでスコルク負けを喫しているだけに雪辱を期していたが橋本は跳躍に春のような切れがなく、また7大戦前の怪我でこれまで練習がほとんどできなかった大堀も見た目の割には記録が伸びず、ともに6 m 24に終わる。

八木澤は同時に行われた円盤投と110 mHにも出場したため、数少ない試技で6 m 55を跳ぶのが精一杯で、3人とも6 m 80を越えてきた京大勢に今年も及ばなかった。来年は、両校とも主力が抜けるので、残る部員の奮起に期待したい。

12:15 円盤跳

5年岡野、4年八木澤、2年出口の出場。岡野は1投目から5投目まではターンで投げるもうまくあわず、6投目にスタンディングにしたのが功を奏し記録を伸ばし3位であった。八木澤は幅跳びと110 mHと行ったり来たりであったせいもあり際どい差で負けてしまい6位であった。出口は全くの不調でファールを連発し36 m 75 cmという悪い記録で終わるも1位であった。

13:15 棒高跳

4年八木澤、2年川添、2年松林が出場。八木澤はテンポ良くバーを越え続け、3m80の記録をのこす。川添と松林はまさかの記録なしで両者とも涙をのんだ。結果は八木澤が2位となった。

13:45 やり投

5年岡野、4年山田、2年出口の出場。出口は周囲の応援にのせられ、序盤から良い記録をだしつづける。それに刺激されたのか、岡野、山田ともに後半から動きがよくなり終わってみれば岡野は60 m越え、山田は59 m 01 cmのベスト、出口も55 m 05 cmのベストであった。

14:30 三段跳

2年川添、橋本、1年小笠原の出場。小笠原は12m後半の跳躍を繰り返すが、ついに13mには届かず結局12m81の5位であった。

橋本は幅跳びの疲れと足首の痛みが重なりことごとくホップでつぶれてしまい、12m46の6位。川添は同時に行われた棒高跳びの状況

をにらみ、1 跳目に 13m24 の記録を残しただけで棒高跳に向かった。棒高跳が終わると戻って 2 回ほど試技を行ったが、さすがに記録を伸ばすことはできずに 4 位であった。今回は京大も本調子ではなかっただけに残念な結果であった。来年は残る部員の活躍とともに、層を厚くするための戦力の補強が求められる。

15:00 砲丸投げ

岡野、4 年青木、出口の出場。出口、青木は 3 投でそれぞれ 11m98、11m68 を投げその後も京大の選手に記録を抜かれることなく 1 位、2 位。岡野はそれまでの競技による疲れか自己ベストに及ばなかったものの 10m68 で 4 位。砲丸投げとしては京大に 7 点の差をつける圧勝であった。

1.4 試合結果

100m

	選手名	大学	記録
1	神通 邦彦	京大	10"94
2	広瀬 亮平	京大	11"06
3	関水 康伸	東大	11"16
4	青木 孝憲	東大	11"28
5	長田 洋輔	東大	11"42
6	朝田 秀	京大	11"45

200m

	選手名	大学	記録
1	広瀬 亮平	京大	21"92
2	神通 邦彦	京大	22"09
3	青木 孝憲	東大	22"56
4	稲澤 晋	東大	22"69
5	朝田 秀	京大	22"89
6	長田 洋輔	東大	23"02

400m

	選手名	大学	記録
1	堀内 壮太	東大	48"71
2	大屋 雄	京大	50"17
3	稲澤 晋	東大	50"57
4	織田 智彦	京大	51"26
5	川合 秀幸	京大	52"06
6	普光 真生	東大	52"42

800m

	選手名	大学	記録
1	八木 創	東大	1'54"31
2	杉本 卓也	京大	1'55"73
3	西村 邦裕	東大	1'56"70
4	丸吉 繁一	京大	1'58"84
5	今野 格志	京大	2'00"26
6	池田 紘士	東大	2'00"96

1500m

	選手名	大学	記録
1	丸吉 繁一	京大	4'00"86
2	川崎 悟	京大	4'03"84
3	大畑 合	京大	4'04"28
4	笹原 翔太	東大	4'04"31
5	桑田 良昭	東大	4'12"36
6	高橋 竜一	東大	4'38"08

5000m

	選手名	大学	記録
1	中台 慎二	東大	15'06"25
2	田中 智晴	京大	15'09"62
3	川崎 悟	京大	15'21"57
4	田坂 和彦	東大	15'27"20
5	松本 隆平	京大	15'27"79
6	池田 哲	東大	15'28"80

110mH

	選手名	大学	記録
1	神通 邦彦	京大	15"13
2	若山 哲志	京大	15"39
3	佐藤真一郎	京大	15"67
4	八木澤一朗	東大	15"96
5	関水 康伸	東大	16"42
6	渡辺 啓隆	東大	18"09

400mH

	選手名	大学	記録
1	高岡 寛也	京大	56"86
2	杉本 卓也	京大	57"58
3	寺田 悟	京大	58"66
4	河内 一了	東大	60"67
5	加藤 博之	東大	61"51
6	羽場 靖洋	東大	68"00

4×100R

	大学名	記録
1	京都大学 (朝田・広瀬・神通・半田)	42"20
2	東京大学 (関水・稲沢・長田・青木)	42"22

大学名		記録	選手名		大学	記録
1	<u>東京大学 (長田・稲沢・八木・堀内)</u>	3'20"37	1	<u>出口 雅俊</u>	東大	36m75
2	<u>京都大学 (織田・半田・大屋・杉本)</u>	3'24"78	2	<u>國信 浩也</u>	京大	34m29
			3	<u>岡野 浩行</u>	東大	33m09
			4	<u>隅田 仁</u>	京大	28m40
			5	<u>宮田 征門</u>	京大	26m71
			6	<u>八木澤一朗</u>	東大	26m69

走高跳

	選手名	大学	記録
1	<u>田代 祥一</u>	京大	2m00
2	<u>藤原 啓</u>	東大	2m00
3	<u>渡邊 浩一</u>	京大	1m95
4	<u>青木 孝</u>	東大	1m95
5	<u>森下 聡</u>	東大	1m85
6	<u>大屋 雄</u>	京大	1m75

棒高跳

	選手名	大学	記録
1	<u>半田 知巳</u>	京大	3m80
2	<u>八木澤一朗</u>	東大	3m80
3	<u>脇 洋平</u>	京大	3m40
	<u>川添 雄太</u>	東大	記録なし
	<u>松林 武生</u>	東大	記録なし
	<u>粟村 聡資</u>	京大	記録なし

走幅跳

	選手名	大学	記録
1	<u>半田 知巳</u>	京大	6m90(-0.1)
2	<u>宮田 征門</u>	京大	6m86(+0.4)
3	<u>國信 浩也</u>	京大	6m84(+0.3)
4	<u>八木澤一朗</u>	東大	6m55(0)
5	<u>大堀 徳人</u>	東大	6m24(+0.1)
6	<u>橋本 武</u>	東大	6m24(-0.6)

三段跳

	選手名	大学	記録
1	<u>粟村 聡資</u>	京大	13m67(-0.3)
2	<u>和田 浩</u>	京大	13m57(-0.4)
3	<u>石川 幸雄</u>	京大	13m51(+0.2)
4	<u>川添 雄太</u>	東大	13m24(+0.1)
5	<u>小笠原義之</u>	東大	12m81(-0.2)
6	<u>橋本 武</u>	東大	12m46(-0.2)

砲丸投

	選手名	大学	記録
1	<u>青木 孝</u>	東大	11m98
2	<u>出口 雅俊</u>	東大	11m68
3	<u>小谷 哲也</u>	京大	11m40
4	<u>岡野 浩行</u>	東大	10m85
5	<u>浦崎 洋平</u>	京大	9m89
6	<u>隅田 仁</u>	京大	9m86

ハンマー投

	選手名	大学	記録
1	<u>出口 雅俊</u>	東大	39m66
2	<u>梅本 雅資</u>	京大	39m16
3	<u>八木 美典</u>	京大	36m98
4	<u>岡野 浩行</u>	東大	34m35
5	<u>浦崎 洋平</u>	京大	31m75
6	<u>雪本 真治</u>	東大	18m95

槍投

	選手名	大学	記録
1	<u>岡野 浩行</u>	東大	60m22
2	<u>山田 千尋</u>	東大	59m01
3	<u>堤 哲生</u>	京大	57m45
4	<u>出口 雅俊</u>	東大	55m05
5	<u>八木 美典</u>	京大	43m12
6	<u>田代 祥一</u>	京大	42m03

対校得点		
	東京大学	京都大学
総合	151	195
トラック	75	109
フィールド	76	86
種目別得点		
100m	9	12
200m	8	13
400m	11	10
800m	11	10
1500m	6	15
5000m	10	11
110mH	6	15
400mH	6	15
4×100mR	2	6
4×400mR	6	2
走高跳	10	11
棒高跳	5	10
走幅跳	6	15
三段跳	6	15
砲丸投	14	7
円盤投	11	10
ハンマー投	10	11
槍投	14	7

2 日本選手権

2.1 監督の言葉

新妻東大新、国体 6 位、日本選手権 9 位

監督 八田秀雄

テレビでも中継されましたように、新妻が 10 月 15 日の富山国体 3000 m S C で 8.48.43 の自己新、東大新で 6 位に入賞しました。東大新誕生の瞬間を生中継のテレビで見ることができたのは初めてでした。また前週の日本選手権でも、予選を 8.52.06 で 2 年連続決勝進出。決勝は惜しくも 9 位で 2 年連続入賞は逃しましたが、タイムは 8.51.55 で健闘しました。今年は専門種目で自己新がなかったのですが、大学院入試が終わってから練習がこなせてきて、調子が上がってきてようやく記録ができました。これで来年も標準記録の変更がなければ、6 月に移動する日本選手権に出られます。来年からは大学院生ですが、秋の日本学生等は「東京大学」として出られますので、まだまだ彼の今後は東大としても大きいことです。また部としての活動に大学院生が参加することが世の流れでもありまた他大に比べた時のわれわれの強みでもありますから、大学院生

が競技を続けやすい環境を作っていくことが重要になります。

2.2 選手の言葉

4 年 新妻 拓弥

昨年の 7 位入賞に続き今年も入賞を目指したが、わずかな差で逃し 9 位に終わった。

しかし、予選・決勝とベストに迫る走りを連発し、ここに来て一気に本来の調子を取り戻した。

そして一週間後の国体でベストを更新できたのは良かった。

京大戦に参加しないことで監督をはじめ部全体に迷惑をかけすみませんでした。

2.3 試合結果

3000mSC 予選

新妻 拓弥 8'52"06 (8 着)

3000mSC 決勝

新妻 拓弥 8'51"55 (9 位)

3 箱根駅伝予選会

3.1 監督の言葉

新コースで記録的にはもう一つだったが、順位は上げる
監督 八田秀雄

箱根駅伝予選会は、10 月 21 日に立川にある昭和記念公園で行われました。これまでの大井埠頭は警察の協力が得られにくくなったようで、一般道を使わない公園内の 1 周 4.78 キロの周回コースを用いました。新コースは概ね平坦ではあるのですが、細かいアップダウンがあり、また 25 度の暑さもあり、これまでより記録は低下しました。そんな中でエースの新妻はトップグループから少し遅れて、落ちる選手を拾っていき、最後のスパートでは法政の徳本らもとらえて個人順位で 10 位に入ったのは見事でした。しかし 2 番手以降は大きく空いてしまい、2 番の中台で 66 分台、10 番目の相原で 72 分台となり、総合では 11 時間 22 分 33 秒と、もう一つという所でした。しかし他校も条件が厳しくなって記録が伸びず、総合順位は一つ上がって 19 位でした。また 1 年の田坂が部内 3 番に入ったり、練習量をこなしている小山が 6 番となるなど、若い選手では収穫があり、今後につながりました。新コースではこれまで以上にごまかしがきかず、普段の練習量

と調整の結果がはっきりできるようになり、箱根の常連校でも失敗が目立ちました。これから3年後の夢に向けて、若い選手が伸びてくれると思っています。これまでより遠くなりましたが、多くの方に来ていただきありがとうございます。来年以降もここで開催するのであれば、家族連れでも楽しめる環境ですので、またよろしくお願いします。

3.2 主将の言葉

主将 新妻 拓弥

今年は例年と違って立川市の昭和記念公園周回コースで行われました。

初めてのコースであり、その上多少のアップダウンもあったため、選手としては不安を抱えながらのスタートとなりましたが、すばらしいレースが展開されました。

「強い」4年生は期待通りチームを引っ張る見事な走りを見せ、3年生2年生も20kmという距離の恐怖にも負けず健闘しました。しかし何と言ってもこの試合一番目に光ったのは1年生の頑張りです。入部してまだ半年ですが、厳しい夏合宿の成果が現れたものだと思います。残念ながら本選出場には遠く及びませんでしたが、各自が課題を見つけ、今後の練習の糧となったという点において来年以降も充分期待できる結果となりました。

3.3 長距離チーフの言葉

長距離チーフ 4年 新妻 拓弥

総合タイム10時間台、あわよくば大学記録更新も視野に入れていたが、立川の難コースへ会場を変えたことで上位との力の差が顕著に表れた。

アップダウンが多く、記録を出しにくいのは確かだが、対校として勝負できるだけの実力が無かった。この一年間、底上げは果たされたが、上位の伸びが無く、個々の努力不足と共にチーフとしての指導不足を感じる。今大会以降、池田哲をチーフに、パートとしては予選会を目指すが、応援するものを興奮させるような走り選手にはしてもらいたい。

声援をくれた方々、ありがとうございました。

3.4 選手の言葉

4年 新妻 拓弥

障害で自己ベストを更新した国体から一週間足らずで、たとえ走力は向上していてもロードへの切り替えが難しく、昨年並みの走りを目指した。先頭集団に一度も付けず、それはならなかったが、自分のペースを守って徐々に順位を上げ、個人で10位に入れたことには満足している。4年間、自分の可能性を開花させてくれた部に感謝します。

4年 中台 慎二

前半の出遅れがひびき、追い込み不足でレースを終えてしまった感のあるレースでした。順位からすると去年より良いのですが、記録は全く良くななく、チームに貢献できずに申し訳なく思っています。残りの秋シーズンは、5000M、マラソンで納得のいく記録を残せるよう追い込んで行きたいと思います。

1年 田坂 和彦

タイムは悪いながら、納得のいく走りができました。3年後の悲願達成に向け、少しでも近付けたと思います。応援および支援して下さいました方々に感謝致します。

3年 藤井 豊

ラスト2kmで死んでしまい、大幅にラップを落してしまいました。来年は僕も4年生ですので、完全燃焼できるように頑張ります。

3年 池田 哲

一年間この大会を目標にしてきたが結局脚の状態の良くないまま本番を迎えることになり、5km手前から脚が動かなくなってきた最後まで粘ることもできなかった。最後の対抗戦でも思うように走れず本当に悔しい。これをバネに来年こそは飛躍の年にしたい。

2年 小山 剛史

現役部員、OBの方々から、コースのあちらこちらで応援をいただいたおかげで、頑張って走りきることができました。本当にありがとうございました。

3年 衛藤 淳一

のぼり調子で当日を迎え、大幅な自己ベストを目指していたが、5km以降徐々にペースを上げていっているつもりで、実際にはじわじわとラップを落としていた。走力自体は向上していたが、立川のコースで20km走るだけの脚筋力が決定的

に欠けていたと思う。最後の1年間、目標をしっかり定め頑張りたい。

3年 辻 拓一郎

今年は昨年以上の成績を上げることはメンバー一同誰も疑っていないところであったのでこのような成績は大変残念です。来年は昨年以上の成績を上げられるよう長距離部員一同協力して頑張りたいと思います。

3年 田中 創

大幅に予定タイムを下回る形になりチーム全体に迷惑をかけてしまった。2週間前からスピードを意識しすぎて、肝心の持久力がおろそかになってしまい自分にふさわしい20キロ向きの練習ができていなかったと思う。

ここまでつぶれたのは陸上人生7年間の中でも初めてで、とても悔しかった、この経験をバネに来年は必ず結果を残せるようにもう一度出直します。

2年 相原 佑康

今回は初出場ということもあり、流れに乗れず不本意な走りでした。来年は、納得のいく走りを目指したいと思います。

2年 大上 隆史

今年はチームに貢献することができず、残念でした。このような大会に参加できたことを励みに今後も頑張りたいです。

1年 高橋 竜一

今回の予選会は78'11"で344人中335位という結果に終わってしまいました。そもそも10000m32'37"というタイムが評価されての選手入りでしたから、この結果には当然満足できてはいません。

敗因は調整ミスだと思われます。夏合宿で故障してからというもの、練習で長い距離を踏めなくなっていた上、京大戦での1500mに合わせた体を戻すことが出来ないまま、20kmに挑んでしまいました。今後はまずトラックで関カレ決勝進出を目指し、そして3年後の本戦出場を目指して頑張っていこうと考えています。

3.5 試合結果

	大学名	記録
1	大東文化大学	10時間 23分 14秒
2	日本体育大学	10時間 26分 47秒
3	國学院大学	10時間 26分 53秒
4	拓殖大学	10時間 27分 41秒
5	法政大学	10時間 31分 47秒
6	平成国際大学	10時間 31分 58秒
19	東京大学	11時間 22分 33秒

個人順位	選手名	記録
10	新妻 拓弥	61'30"
169	中台 慎二	66'13"
186	田坂 和彦	66'51"
203	藤井 豊	67'36"
211	池田 哲	67'53"
228	小山 剛史	68'59"
244	衛藤 淳一	69'53"
261	辻 拓一郎	70'40"
267	田中 創	70'56"
286	相原 佑康	72'02"
309	大上 隆史	73'32"
335	高橋 竜一	78'12"

4 新主将、新主務の言葉

4.1 新主将の言葉

3年 青木 孝憲

日頃よりOBの皆様には多くの御支援、御声援を賜りまして誠にありがとうございます。

京大戦、予選会も終了し、新体制のもと大海に向けて船出致しました。京大戦において2年連続大敗を喫しましたことは非常に不本意であり、大きな課題を残しました。

その敗北の悔しさを胸に、各自が意識を変えて、チームの目標、個人の目標を明確にし、日々努力しております。

学生の本分である勉強に忙しく、なかなか思うように練習ができないという悩みを持った者もおりますが、逆にそれが「時間をうまく使う」という点で、人間として成長できるいい機会であると捉えております。

21世紀を迎えるにあたりまして、これまでの東大陸上部の伝統を踏まえつつ、新たな歴史を築いていくという大事な時期に現役部員でいられることをありがたく思い、精進していきたいと思っております。

来年は七大戦、京大戦ともに東京開催となっております

すので、OBの皆様の期待も一層大きいかと思います。
その期待に応えられるよう頑張っていきます。
今後とも御指導、御鞭撻のほどよろしくお願い致します。

4.2 新主務の言葉

3年 辻 拓一郎

一年間主務を務めさせていただきます長距離3年の辻 拓一郎と申します。到らないところも数多くあると思いますがよろしくお願い致します。現在東大陸上運動部は関東インカレ一部昇格・七大戦六連覇・京大戦優勝を目指して日々練習に励んでおります。ご都合がよろしければ駒場のグラウンドに足をお運びくださり、ご指導下さいませ。倶楽部会員の皆様のご指導・ご支援は部員一同いつも感謝しております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

5 2000年度部内5傑

100m

1	長田 洋輔 (4年)	10"96(+2.0)	4.8
2	青木 孝憲 (3年)	11"13(+1.9)	4.8
3	関水 康伸 (3年)	11"16(-0.5)	10.7
4	稲澤 晋 (4年)	11"18(+1.2)	6.3
5	鈴木 貴博 (2年)	11"21(+1.7)	4.8

200m

1	稲澤 晋 (4年)	22"31(-0.2)	7.2
2	青木 孝憲 (3年)	22"37(+0.5)	9.16
3	長田 洋輔 (4年)	22"48(-0.2)	7.2
4	堀内 壮太 (2年)	22"71(0.0)	6.3
5	肥後 明佳 (2年)	22"94(-1.5)	6.3

400m

1	堀内 壮太 (2年)	48"71	10.7
2	稲澤 晋 (4年)	49"58	7.2
3	八木 創 (4年)	50"4	6.17
4	普光 真生 (4年)	50"90	7.2
5	長田 洋輔 (4年)	51"49	6.3

800m

1	八木 創 (4年)	1'52"57	5.21
2	新妻 拓弥 (4年)	1'54"61	7.2
3	西村 邦裕 (4年)	1'55"92	7.2
4	笹原 翔太 (1年)	1'58"44	7.2
5	池田 紘士 (2年)	1'59"22	7.2

1500m

1	新妻 拓弥 (4年)	3'54"79	3.26
2	八木 創 (4年)	4'00"16	7.23
3	桑田 良昭 (4年)	4'02"9	
4	笹原 翔太 (1年)	4'04"31	10.7
5	高橋 竜一 (1年)	4'10"0	

5000m

1	新妻 拓弥 (4年)	14'07"40	5.21
2	中台 慎二 (4年)	15'06"9	
3	池田 哲 (3年)	15'07"1	
4	本田 達也 (8年)	15'19"51	6.3
5	田坂 和彦 (1年)	15'27"20	10.7

110mH

1	関水 康伸 (3年)	15"83	7.23
2	八木澤 一郎 (4年)	15"87	4.8
3	渡辺 啓隆 (2年)	17"3	9.9
4	松林 武生 (2年)	17"7	9.9

400mH

1	高梨 幹生 (5年)	58"8	9.9
2	河内 一了 (3年)	59"62	7.23
3	林 瑞樹 (1年)	60"02	7.23
4	加藤 博之 (2年)	60"46	6.3

3000mSC

1	新妻 拓弥 (4年)	8'48"43	10.15	東大新
2	藤井 豊 (3年)	9'34"91	7.23	
3	田辺 匡亮 (2年)	9'47"65	7.2	
4	相原 佑康 (2年)	10'01"02	7.2	
5	高橋 竜一 (1年)	10'07"88	7.2	

10000mW

1	衛藤 淳一 (3年)	44'44"20	9.3
2	中台 慎二 (4年)	48'35"49	5.21
3	田辺 匡亮 (2年)	59'14"	3.30

走高跳

1	青木 孝 (4年)	2m01	5.14
2	藤原 啓 (2年)	2m00	10.7
3	森下 聡 (2年)	1m85	7.23
4	阿部 太一 (1年)	1m80	7.23
5	村口 和人 (1年)	1m80	

棒高跳

1	川添 雄太 (2年)	4m70	7.2
2	八木澤 一郎 (4年)	3m90	6.3
3	松林 武生 (2年)	3m80	7.2

走幅跳

1	大堀 徳人 (4年)	6m83(+1.9)	4.23
2	八木澤 一郎 (4年)	6m79(+0.9)	4.8
3	室井 浩明 (1年)	6m76(+1.4)	7.22
4	橋本 武 (2年)	6m51(+1.9)	4.23
5	藤原 啓 (2年)	6m09(+0.9)	6.3

三段跳

1	川添 雄太 (2年)	13m35(+1.5)	7.23
2	出口 雅俊 (2年)	13m15	7.23
3	小笠原 義之 (1年)	13m04(+1.4)	7.2
4	橋本 武 (2年)	12m91(+1.7)	7.23
5	大堀 徳人 (4年)	11m99	6.3

砲丸投

1	青木 孝 (4年)	11m98	10.7
2	出口 雅俊 (2年)	11m79	7.22
3	岡野 浩行 (5年)	11m36	7.22
4	八木澤 一郎 (4年)	10m39	
5	田村 潔 (3年)	9m34	6.3

円盤投

1	出口 雅俊 (2年)	39m19	9.9
2	岡野 浩行 (5年)	33m09	10.7
3	八木澤 一郎 (4年)	27m45	6.3
4	松林 武生 (2年)	23m27	4.23
5	田村 潔 (3年)	20m86	9.9

ハンマー投

1	岡野 浩行 (5年)	35m76	7.2
2	出口 雅俊 (2年)	35m23	9.9
3	雪本 真治 (2年)	21m32	7.2

槍投

1	岡野 浩行 (5年)	60m90	7.2
2	山田 千尋 (4年)	59m01	10.7
3	出口 雅俊 (2年)	55m05	10.7
4	田村 潔 (3年)	47m01	6.3
5	八木澤 一郎 (4年)	45m70	5.20

十種競技

1	八木澤 一郎 (4年)	6030点	5.19,5.20
2	松林 武生 (2年)	4279点	4.22,4.23

女子 100m

1	帰山 祐佳 (2年)	13"22(-1.0)	7.22
2	中島 香恵 (4年)	14"0	9.9

女子 200m

1	帰山 祐佳 (2年)	27"53	6.3
---	------------	-------	-----

女子 400m

1	後藤 真紀子 (3年)	64"93	7.23
2	中島 香恵 (4年)	65"5	9.9

女子 800m

1	中島 香恵 (4年)	2'25"38	6.3
2	後藤 真紀子 (3年)	2'32"97	7.22

女子 1500m

1	高橋 牧子 (4年)	5'18"41	7.2
2	宮本 幸子 (2年)	6'27"9	9.9

女子 3000m

1	高橋 牧子 (4年)	11'32"58	7.2
---	------------	----------	-----

女子走高跳

1	中西 紅美 (1年)	1m40	7.23
---	------------	------	------

女子走幅跳

1	中西 紅美 (1年)	5m02	7.23
---	------------	------	------

女子砲丸投

1	中西 紅美 (1年)	9m79	9.9
2	帰山 祐佳 (2年)	7m08	9.9

女子槍投

1	中西 紅美 (1年)	31m32	7.2
---	------------	-------	-----

6 住所変更・訂正

以下の方より住所変更の御連絡がございました。

6.1 OB住所変更国内

6.2 OB住所変更海外

6.3 訂正・更新状況

11/14 … 京大戦対校得点を「試合結果」のセクションに追加

11/5 … 住所変更についての記述を削除

編集後記

今回の部便りで、日本選手権につきましては、他の部員が同行出来なかったこともあり、結果のみの報告となっておりますことを、ここにお詫び申し上げます。

さて、この度、4年生が学部生としての競技生活を引退ということで新体制へ移行となりました。それに伴いまして、今回から部便りの編集の方も永田、片桐、河内の3名が仕事をさせて頂くことになりました。今後とも、陸上運動部の活動をOBの皆様へ、いち早くお伝えできるよう心掛けていきたいと思っております。

色々と御迷惑を掛けるとは思いますが、よろしくお願い致します。